

**clozu-up
Ozu-jin**



▲令和6年台湾文化交流公演のフィナーレにて。台熊友好会のメンバーと出演者が揃って記念撮影
▲松岡さんによる台湾スイーツ講座に小学生が参加。メディア取材もあり、台湾との交流に対する関心が高まっている

はじめての餅つき、一緒に



大津のことがもっと好きになる情報誌

**広報
おおづ** 1
January 2026

台湾と熊本をつなぐ架け橋に



松岡 光希さん(吹田)

異国の文化を受け入れ、挑戦を重ねてきた松岡光希さん。現在は美容の仕事のほか、台湾と熊本をつなぐ活動にも取り組んでいる。地域に根を張り、人と人との架け橋となつてこる松岡さんにつけていた。半導体エフジットもつて台湾に赴任していった夫と出会い、結婚。2004年に大津町へ移住した。「結婚当初は通称名や国籍の手続きが大変で、とても苦労しました。日本語はある程度できましたが、熊本の方言にせき崩れました」と当時を振り返る。両親からも「日本は亭主閣主と聞くが大丈夫か」と心配されたが、夫の協力と支えを受け、田での暮らしも気抜けば20年を超えた。前向きで、積極的な性格の松岡さんは2022年に設立された「台熊友好会」の立ち上げメンバー。台湾出身者や台湾に縁のある日本人とともに、情報発信や通訳で在住者や観光客を支援している。TSMC本社のある新竹市出身といつてもやはり、最近はTSMCに関する身近な質問を聞けることよりも、「熊本の台灣の魅力を伝える時は、戻りとだけではなく、困りのいじや遠いわきわくと伝へようじつてこむ。台灣の人はとてもフレンドリーに伝える文化があります。そこを理解していただけた」と語る。文化の違いに向むかひ中で心掛けているのは「元を壊さない」こと。相手の大切にしこるやのを尊重しながら、受け入れる姿勢を大切にしている。「無理なく、自分にできる」とをコツコツと積み重ねてこられたんですね。」朗らかに話す光希さん、これからも熊本と台灣をつなぐ架け橋、であり続けるのだ。

ついで、2年なんど加齢によるものだらけと考え、仕方のないことに思っていたのですが、最近その原因が分かりました。原因を取り除けば、1~2ヶ月で症状が改善されるかもしれませんとのことで、違和感を放置せずに検査をすることの大切さを改めて感じました。

先日、娘の高校入試の出願関係で事前登録を行いました。インターネット上で手続きを行ひ、もやいことなっていました。インター

（M.S）

がスマホ決済も可能なことに驚きました。私が高校受験をした頃とは全く違う仕組みです。デジタル化がすうじですね。

広報が読める
スマートフォン
マチイロ
見やすく読みまちがえにくい
QRコード
ユニークデザインフォント
を採用しています。

Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2026 1 ○

発行・編集■大津町・総合政策課
〒860-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津123番地
TEL.096(293)3118 http://www.town.ozukumamoto.jp/ *広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物油インクを使っています。

UD
FONT

つづの組